

皆さんも承知のように、本校卒業の同期生で組織される数々の同期会が、実に熱心に活動されておられます。古くは、明治・大正時代から昭和・平成に至るまで多くの会がありますが、今回は昭和から現在に至るまでの主な同期会(卒年・呼称)を紹介します。

昭和二年(二年会・にねんかい)、昭和三年(新会・いっしんかい)、昭和四年(昭四会・しやうよんかい)、昭和五年(昭五会・しやうごかい)、昭和六年(昭六会・しやうろくかい)、昭和七年(昭七会・しやうしちかい)、昭和八年(八昭会・はっしやうかい)、昭和九年(九昭会・きゅうしやうかい)、昭和十年(十和会・とうわかい)、昭和十一年(五十会・いそかい)、昭和十二年(知新会・ちしんかい)、昭和十三年(十三会・とさんかわかい)、昭和十四年(梧桐会・ことうかい)、昭和十五年(十五会・じゅうごんかい)、昭和十六年(五十五会・ごじゅうごかい)、昭和十七年(荒波会・あらなみかうはちかい)、昭和十八年(一八会・じゅうはちかい)、昭和十九年(互葉知会・ごはちかい)、昭和二十年(はたち会・五九重会・ごくどうかい)、昭和二十一年(二十二年(還暦会・かんれき会)、昭和二十三年(三三會・さんさん會)、昭和二十四(ふみよかい)、昭和二十五(三友会・さんゆうかい)、昭和二十六(二六会・にじゅうろくかい)、昭和二十七(二七會・にいななかい)、昭和二十八(二八會・にはちかい)、昭和二十九(二九會・にいきゅうかい)、昭和三十(三和会・さんわかい)、昭和三十一(三一

会・さんいちかい)、昭和三十二年(商友会・しやうゆうかい)、昭和三十三年(三三會・さんさん會)、昭和三十四年(七味会・しちみかい)、英華会・ふようかい)、昭和三十五年(三五會・さわかい)、昭和三十六年(三六會・さんろくかい)、昭和三十七年(三七友会・みなともかい)、昭和三十八年(東会・あづまかい)、昭和三十九年(三九會・さんきゅうかい)、昭和四十年(四〇會・よんまるかい)、昭和四十一年(同商會・どうしやうかい)、昭和四十二年(百會・ももかい)、昭和四十三年(四三會・よんさんかい)、昭和四十四年(獅子会・ししかい)、昭和四十五年(久路生会・くろうかい)、昭和四十六年(もくよう會、昭和四十七年(九十八會・きゅうじゅうはちかい)、昭和五十年(五〇會・ごうまるかい)、昭和五十五年(五五會・ごごうかい)、昭和五十六年(五六會・ごうろくかい)、昭和五十七年(五七會・ごしちかい)、昭和五十八年(白波会・しらなみかい)、平成元年(すみれ会)、平成八年(平八會・へいはちかい)、平成九年(あかの会、平成十二年(縁会・えにしちかい)、平成十三年(絆会・きずなかい)などです。

昭和の時代は、四十年代までは毎年何かの呼称(愛称)を各期でつけて活動をされておられるようです。ある期は、幹事の方が、全国の同期の皆様に定期的に通信を作成されたり、全国に各支部を設けて支部ごとに活動されたり、本部の同窓会総会に揃いのスーツと同期会の旗を作られたり、懇親会や趣味の会で展示会を開催されたり、非常に熱心に活動されておられる会もあります。もともと、本校は男子校でしたから昭和二十年代初期までの男性中心の同期会は特に結束力が強いようです。

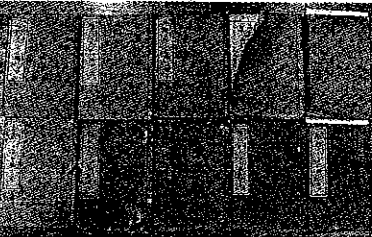
当然、まとまりの良い同期会は、幹事さん中心に組織的な活動をされておられ、毎年創立記念日前の土曜日に開催している同窓会総会には毎年多くの方が参加いただいております。参考までに、創立百周年(昭和五十九年)記念同窓会総会が本校の体育館で開催された



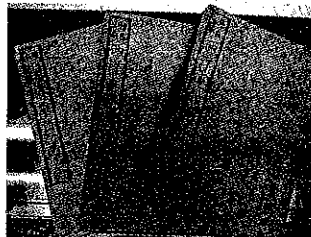
創立百周年記念同窓会総会

時は、全国から約千八百名もの卒業生がお越しになり、余りの多さに会場に入りきれずに多くの方が会場近くで待機される事態となりました。

現在、同窓会総会・懇親会の当番幹事は、男性が卒業して十年目(二十八歳になる年)、女性が卒業して二年目(二十歳になる年)に担当するようになっていきます。卒業して、当番幹事となって運営を事務局とともに仕切っていく訳ですが、総会終了後にこのような会を立ち上げて益々の交流をされたいかがでしょうか。



学問のススメ



西洋事情

※前号の答え「西洋事情 上・中・下巻(福澤諭吉著 慶応四年発行)」「学問のススメ(福澤諭吉著 明治五年発行 全十編)」「いづれも万古館一階ロビーに展示されています。なお、「萬國商法 明治十年六月内務省発行」などが本校図書館(万古館 最古の所蔵本です。二階の郷土資料室に大切に保管されています。